

# 間違わない補聴器の 選び方 着け方 (4)

博士補聴器 代表 由井 宏知ゆい こうち

難聴者に接する際には、ちよつとした気配りを



健聴者は、難聴者に対してどのように接すればよいでしょうか。補聴器を着けたのだから聞こえるようになったのだから聞こえないと思ひ込み、まったく配慮をしないで話しかけたりしがちです。しかし実際には補聴器を着けても聞き取りにくさは残ります。補聴器を着けていても着けていなくても、ちよつとした気配りをするだけで「コミュニケーションが円滑になります。

相手に顔を向ける  
話を理解するためには、音声だけでなく口の形や表情も重要な手掛かりになります。更に正面からの声は直接耳に届くため聞き取りやすくなります。

相手との距離に注意する

相手との距離が近いほど、音声は周りの雑音より大きくなります。ただし、近づきすぎず顔が相手の視野に入るようにします。

ゆっくり、はっきりと話す

難聴者は少ない音情報に基づいて話をしますので、音の理解に時間がかかります。難聴者の多くが、はっきりと話すアナウンサーの声は比較的理解できるのに対し、ドラマの声は聞き取りにくいのはこの為です。出来るだけはっきり、ゆっくりと話すかわかりやすく、考える時間の余裕もできず。

場所

言葉が雑音にかき消されることや表情や口元が見えなくなることを避けるため、雑音の多い場所や暗い場所、逆光などを避けるように心がけます。

会話前の注意喚起

話し始める前に手を振る、軽く肩を触る、名前を呼ぶなど注意を引き、会話のトピックから説明します。会話をスムーズに進める準備になります。

安全配慮

周囲の安全にも配慮が必要で、音情報の不足による事故を防ぎます。例えば前から熱々の料理が運ばれてくる際に、難聴者の近くを通るのを避けるようにするなどです。

筆談やジェスチャー

必要に応じて筆談やジェスチャーを使うことも有効です。例えば、『田中さんは私達に10時にそのオフィスに書類を取りに行くように言いました』という会話は、『田中さん／言った／10時／オフィス／書類／持つ』などに身振りを付けることができます。コミュニケーションを諦めないことは難聴者を尊重することになります。

その他Key Point  
丁寧な会話を心がけ、冷たい態度をとることは避けてください。会話に参加するように促し、発言してもらうタイミングを作るようにします。その際、『はい』『いいえ』が答えになる質問ではなく、相手の考え方を聞くような会話を心がけることで、双方の誤解を避けることもできます。

また補聴器を着けたらすぐに聞こえるようになる誤解されがちですが、慣れるためにはある程度の時間が必要です。初めての補聴器装用はとても疲れることですので、『補聴器をしているのに聞こえないの？』などという言葉は避け、励まし見守ることが大切です。